

## BAUHAUS= ???

「バウハウス」を一言で表現するならば、何と形容できるだろうか？

現在にまで残るプロダクトに見られるインダストリアル・デザイン、デッサウ校舎に見られる立方体の連なった建築、ジードルンクに見られるような規格化、プレファブ化の施工方法などの、生産主義と結びついた「近代合理主義」だろうか？

それとも、バウハウス創立宣言にグロピウスが示したような手工芸への回帰や、マイスター制度に見られるような回顧主義的な教育制度などの「近代主義の否定、反近代」だろうか？

バウハウスを形容する言葉を探そうとしたなら、そこにはいくつもの相対する言葉が同時に出てくるだろう。バウハウスが行ったことは、「手工芸」の礼賛と「機械生産」の導入、「芸術」家が施す「実用性のあるデザイン」の習得、などなのだから。

それらの言葉からバウハウスを「矛盾」ということばで形容することは、もしかすると安易であるかもしれない。もちろん「矛盾」という言葉がこの問いの答えであると強制もしない。

そうなれば、バウハウスとは……。もちろん歴史の俯瞰で終わってしまうならば、これほど非生産的な問いはないかもしれない。しかし、この問いを出発点として、今現在に生きる私たちにできることは、そこに私たちがなりの 21 世紀の思考というもので考えていくことが、よりいっそうの解釈につながるのではないか。

当日は、発表班を中心としつつ参加している皆さんにも意見を求めて議論のスタイルで進行を行っていく予定である。以下に当日の発表の際に我々から発せられるであろうキーワード・キーフレーズを掲載しておくので、一考してきていただきたい。

### キーワード・キーフレーズ

- ・ 機能⇔表現
- ・ 総合⇔シンプル
- ・ 手工芸⇔タイプ化
- ・ バウハウスはなぜ有名？
- ・ 現在でもバウハウスのようなテンションの学校、共同体は実現可能か？
- ・ バウハウスって本当に機能主義だったの？
- ・ 機械を積極的に用いたが、大量生産を行わなかった意味とは？
- ・ バウハウスでの生活って楽しそう？
- ・ それが残したものは？→インダストリアル・デザインとデッサウ校舎だけか？
- ・ それが現代に投げかけている問題とは？→総合、統一の問題
- ・ 私たちのイメージの中のバウハウス→バウハウス・スタイル
- ・ 相対するものの内包→近代・反近代
- ・ 理念と残されたもの間にある矛盾→1923「新たな統一」の前後